

北星記念病院

「地域医療の充実に邁進」

8月 循環器内科に福嶋医師が着任

医療法人社団高翔会 北星記念病院（北見市中央三輪2・松岡慶太理事長・病院長）はこのたび、常勤医師が不在となっていた循環器内科に福嶋中央医師（52）を招聘。8月1日付で循環器内科部長として着任した。「良質な地域医療の提供」の理念実現に向けて充実の診療体制が整った同病院は、スタッフ一丸となり地域医療充実への使命を全うする。

「急げば救える命がある」

福嶋医師は東京都出身。都内の高校を卒業後、文系の大学を経て一時は金融の道へと進んだが、かつて志した医療への思いが再燃し、25歳で名古屋大学医学部に入學。卒業したのは05年3月、30歳を過ぎてからだった。「周囲と比べてやや遅咲きだったが、広く医療に携わり、誰かの命を救いたいという思いが強かった」。卒業後は愛知県内の病院で循環器内科医として勤務し、知識と経験を積み上げる。12年からは浜松医療センターへ。医師150人を擁する大病院で副院長として医長まで務め、循環器内科の専門医



福嶋中央循環器内科部長（中央）

として確かなスキルを磨き上げた。昨秋、地域医療への貢献を志し道南の八雲総合病院へ赴任。循環器内科医不毛の地域でその使命を全うしていたが、今年3月に循環

器内科の常勤医師を捜し求める北星記念病院の存在を知った。「人口10万人規模

の北見市なら、これまで経験を積んだカテーテル治療など、自分自身のスキルを発揮できる機会が十分にあるはず」その直感を頼りに話は前へと進み、今月1日、福嶋医師は未知の地オホーツクへと足を踏み入れた。「北見は坂道のある景観が実に新鮮。食べ物も美味しいし、趣味の川釣りも堪能できそうな環境。心機一転、この街のために全力を尽くしたい」と、新天地での生活に期待が高まる。そして「この病院の患者数を増やすのはもちろんだが、北見全体の医療の受け入れ間口を広げていきたい。カテーテル治療を受けるのに2カ月待ちという地域もあるが、ここでは24時間の受け入れ体制を整え、緊急カテーテル治療にも対応する。『急げば救える命がある』その思いを常に心に留め、循環器医師としての使命を全うする」重みあるその言葉に、確かな信念が宿っている。

「地域に信頼される病院」

同病院の本間巧事務長は「縁あって福嶋医師との出会いに辿り着いた。これを機に、多くの患者さんのニーズに幅広く応える北星記念病院の新たな一歩がスタートする」と力強い言葉を寄せた。毎日コツコツ、地道が一番。亡き先代が掲げた『地域に信頼される病院』を目指し、北星記念病院は地域医療への貢献に邁進する。

